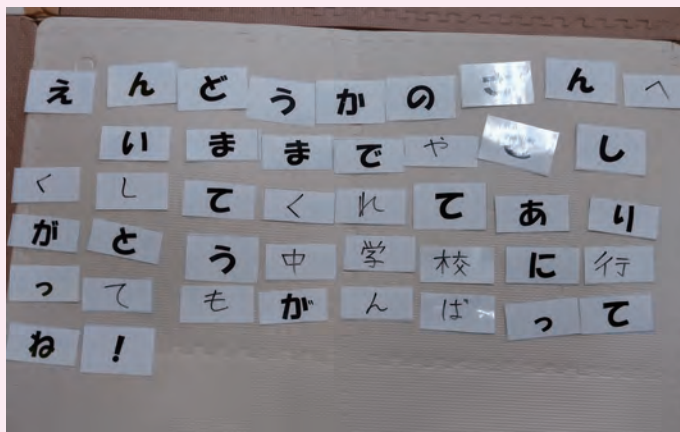
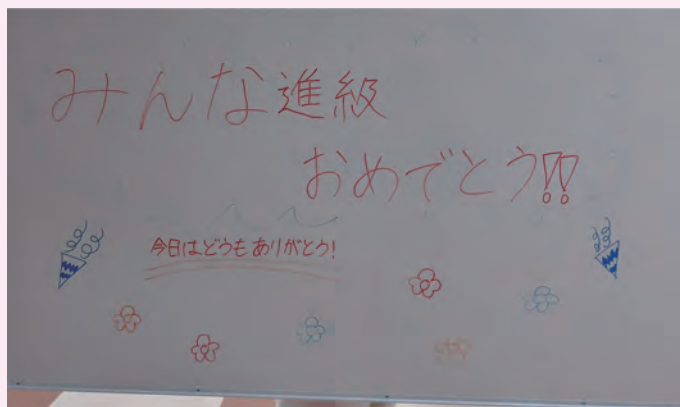


YMCA News

4



「いつでも前向きに」



新型コロナウイルスの影響で1月から3月までの2か月間、活動ができなかったため子ども達と関わることはできませんでした。この不自由がいつまで続くのかと悲観的になり、一緒に活動できることは当たり前のことではないなと思いました。しかし、悲観しては何も始まることはありません。この状況の中で何ができるのかを考え、3月はオンラインでの活動で子ども達と関わることができました。やっぱり、子ども達と遊ぶのはスゴく楽しかったし、私も子ども達から元気をもらいました。実際に会っての活動ではありませんが、子ども達と関わる楽しさを改めて感じる事ができました。

4月からは早く対面での活動が再開することを願いながら、このような状況だからこそ悲観的にならずポジティブに行動することを大切にし、zoomなどでオンラインを使った活動を行うことで、リーダーという立場から貢献していきたいと

思っています。私たちリーダーが“マイナス”な状況も“プラス”に変えられるようにエネルギーに活動すること少しでもみんなが前向きになれるように頑張ります!

今年度も何事にも“チャレンジ”する気持ちを忘れずに自分らしく突き進んでいきます。多くを学び、失敗しても立ち上がり、リーダーとしてだけでなく人としても成長する1年にしていきます!

最後になりますが今年度も盛岡YMCAリーダー会をよろしくをお願いします。



盛岡YMCAリーダー会長
十文字堅斗(おびリーダー)

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

ベストキッズ卒団式



3月20日(日)滝沢総合公園体育館にて、盛岡YMCAベストキッズの卒団式が行われました。まずは6年生のみなさん、卒業おめでとうございます!ベストキッズを引っ張ってくれたことに感謝しています。いつもであれば6年生にとっては最後の活動であり、「6年生を送る会」として行っていたのですが、2022年3月いっぱいをもって盛岡YMCAベストキッズは解散となることから、6年生だけではなくベストキッズに在籍する子どもたち全員を、保護者の主催により送る事となりました。真剣勝負の中での悔しさや喜びを体験してきた子どもたちや、OBが育んできたこのベストキッズは、盛岡YMCAにとって価値のある活動です。

サッカーを通して学んだ、「挨拶をする」「使った物は自分たちで片付ける」「仲間と共に最後まで諦めない」、そして「すべての事に感謝する」ということを体現してきました。子どもたちはサッカーの技術と共に、人としての成長を多く学んでくれました。



2020年3月以降、コロナウイルス感染症への感染対策を講じながら活動してきましたが、2022年1月13日に発令された岩手県緊急事態宣言に伴い、活動休止となり、全員が顔を合わせる機会を失ってしまいました。しかし、約2か月ぶりに会った子どもたちは、すぐに挨拶に来てくれました。挨拶の意味を知り、当たり前に出てくる子どもたちに改めて、感動しました。

今年度をもってベストキッズの活動は終了しますが、本当に盛岡YMCAベストキッズの子どもたちは、みんなに自慢できる存在だと思います。今まで盛岡YMCAベストキッズに関わってきた皆様、支えていただいた保護者の皆様、そして今回の会を開催していただきました保護者の皆様、全ての方に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

ベストキッズディレクター 東森 聡

第1回盛岡YMCA水泳大会



3月26日、『第一回盛岡YMCA水泳大会』が開催されました。コロナウイルスの影響で、対面ではなく、Zoomでの開催となりましたが、22名の子どもたちと、21名のリーダー、スタッフで、総勢43名での開催となりました。

水泳教室が3カ月間休講となり、何もせずにはいられず、急遽開催が決まったこの水泳大会。それは、分からないことも多く、準備にとっても時間がかかりました。ゲーム大会の空気感を出すためにはどんな工夫が必要か、Zoomの使い方が分からない方のために何かアイデアはないか、具体的な準備に取り掛かれれば取り掛かるほど、様々な課題が出てきて、その都度リーダーたちは知恵を絞り、修正していきました。リーダーはひたすら、子どもたちと3か月ぶりに会えることを楽しみに準備をしていきました。

そして、水泳大会当日。私たちの緊張は、子どもたちの表情を見ると、一気に吹き飛びました。子どもたちは3か月ぶりにも関わらず、とても元気で、画面の向こう側でとてもはしゃいでいました。気づけば、保護者の方、兄弟、姉妹の子も一緒にゲームに参加をしてくれていました。

やはり、実施して良かったと心から思いました。初めての企画でうまくいかない部分もあり、保護者の皆様にご迷惑をかけた部分もあったかと思います。それでも、子どもたちとリーダーを温かく見守ってくれていたことにとても感謝でいっぱいです。

4月からまた水泳教室が始まります。水泳大会に参加してくれた子どもたちも、参加できなかった子達も、これまで以上に楽しい活動ができるようリーダー一同準備を進めていきます。今度はプールでお会いできることを心より楽しみにしております。

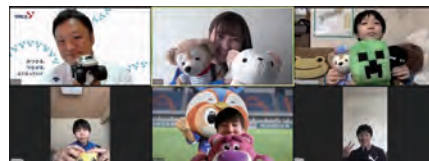


水泳教室
ディレクター
武田悠

サッカースクールzoomお楽しみ会



3月27日(日)、zoomにて「サッカースクールお楽しみ会」を開催しました。コロナウイルス感染拡大により1月13日に岩手



県緊急事態宣言が発令され、それに伴い盛岡YMCAのウェルネスプログラムは3月いっぱいまで休止となってしまいましたが、どんな形でも6年生を送ってあげたい!5年生以下の子どもたちの笑顔も見たい!という気持ちから開催を決めました。

画面上ではありますが、久しぶりに会う子どもたちの顔は笑顔に溢れて本当に会えてよかったなと思います。当日は金曜コース、土曜コース、木曜コースに分かれてそれぞれミニゲームを行いました。「家の中にあるものしりとり」では様々なものが出されてきました。ゲーム機や文房具などの小物から、おうちの方のご協力で食卓に並べられているものや調味料、大物家具など、zoomだからこそこれだけのものが揃い、参加したリーダーたち顔負けの答えがでてきたのですが、木曜コースは自分に回ってくるワードを予測して物を準備するなどの神業を見せてくれた子も現れました。

その他、金曜コースは「みんなと答えを合わせよう!以心伝心ゲーム」をおこない、お題の答えを全員で合わせるのですが、チームワーク抜群で参加者全員の答えが4問連続一致するという、こちらも神業ができました!なかなか会えなくても1年間培ってきたチームワークは衰えていませんでしたね。

ゲームの後はリーダーから6年生への卒業お祝いメッセージやムービーを流したりと6年生への感謝の気持ちを込めた時間となりました。お楽しみ会の時間はそれぞれ1時間ではありましたが、いつもとは違う形で楽しめるとても貴重な時間でした。ご家族の方もご協力いただきありがとうございました。そして、6年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。YMCAのサッカーを引っ張ってくれてありがとうございました。リーダーもスタッフもずっとみんなを応援しています。

サッカー事業担当 東森 聡

～新入職員紹介～



ぶらいむ・たいむ向中野校に大きな新入職員、鷹木哲也(たかぎてつや)さん【リーダー名:ホーク】がやってきます。リーダー名の「ホーク」は、苗字の「鷹」にちなんでいます。

大きな新入職員とは...そうです!身長です!「大きくて鷹のように強い」となれば鬼に金棒ではないでしょうか。生まれも育ちも盛岡市という生粋の盛岡っ子で、そんな鷹木青年は盛岡市内の小学校、中学校、高校、専門学校を卒業し、郵便局で働きはじめました。専門学校在学時からアルバイトしていた郵便局での事です。時折、市内の小中学生がお仕事見学として郵便局を訪れてきます。その際に触れ合った子どもたちの素直な反応や、目を輝かせている姿を見て、子どもに関わる仕事に興味が湧いてきました。そこで出会ったのが盛岡YMCAぶらいむ・たいむ前潟校です。前潟校のパートタイマーとして子どもたちと触れ合い、2022年春、満を持して盛岡YMCAのフルタイム職員となりました。

さて、前潟校でのホークはと言いますと、「土が好き」「作物が好き」「田植えが好き」という大の畑好き。前潟校の畑では草刈り隊長として、畑の整備に汗を流してくれました。そして、特に1・2年生男子から人気があり、屋内でも公園でも男の子たちと鬼ごっこや、ボール遊びをしていました。そんなホークに簡単なインタビューを行いました。

【Q1】何でそんなに背が伸びたの? A.牛乳をたくさん飲んでた!

【Q2】若き頃の夢は? A.EXILEの一員になりたい。

【Q3】向中野校の職員としてどうなりたい? A.できるだけたくさんの子どもたちに関わって、みんなに愛されるリーダーを目指します!

以上、大きくて強く優しいホークを皆さん宜しくお願いいたします。

前潟センター長 東森 聡



2021年12月から松島なつみさんが、向中野センターのスタッフとして仲間に加わっています。リーダー名はプリンと言います。リーダー名の由来は、パートリーダーとしてぶらいむ・たいむ盛南校に勤務していた際に、メンバーの子から「リーダー名は、プリンね!」と名付けてもらったことより、そうなったとのことです。本人曰く、プリンよりもゼリーの方が好きだそうです!

そんなゼリー派のプリンリーダーですが、航空系のお仕事を目指して学んでいた経験があり、なんと英語と韓国語と中国語の3つが話せます!3か国語を話せることは、トリリンガルと言うそうですよ!すごいですね!プリンがいてくれることで、向中野センターがグローバルな感じになり、更ににぎやかになっていきそうだなあと、これからがとても楽しみです。

ぶらいむ・たいむ向中野校にきた当初は、かなり緊張していた様子でしたが、今は子どもたちと向き合い、楽しく思いっきり遊んでくれます!そのため、とっても人気者です!

また、YMCAの習い事表や季節の掲示物、誕生日表などを作るのがとても上手で、センターの玄関先や、室内に掲示してある装飾がセンスあふれるものとなっているのは、プリンのおかげだと言っても過言ではありません!

とても魅力あふれるスタッフが、ぶらいむ・たいむ向中野校に入ってきてくれました。皆さん、そんなプリンリーダーをこれからも宜しくお願い致します。

向中野センター長 尾形裕一郎

国際協力募金活動



2021年度の国際協力募金は、11月1日から2月28日の期間で受け入れを行い、盛岡YMCAに寄せられた募金は総額で280,267円となりました。予定していた街頭募金は、新型コロナウイルスの影響で行うことができませんでしたが、各プログラム会員の皆様を始め、盛岡YMCAに関わる多くの方から、たくさんの温かいご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

また、盛岡南ドライビングスクール様、学校法人スコーレ高等学校の敷地内にあるレストラン「パタタ」様、LiRiO様、奥羽キリスト教センター様、山善様、日産プリウス岩手販売(株)本社中古センター様、天神町薬局様に、募金箱の設置とポスター掲示のご協力を頂きましたことも合わせて感謝致します。

皆様から頂いた募金は、日本YMCA同盟を通じて、主にミャンマー(公衆衛生活動)、カンボジア(経済的な理由で、学校に通えない子どもたちへの支援活動)、タイ(児童保護活動)、ベトナム(小学校建設)、東エルサレム・ギリシャ(難民支援活動)、ネパール(収入を失った人の生活支援、災害支援)、アジアの東ティモール(子どもたちや若者の教育活動)への支援等に充てさせていただきます。

募金送付先の人々のことを、私たちは知らないと思いますが、一人でも多くの方に国際協力活動について知ってもらえるように、これからも活動してまいります。

国際協力募金活動に関わって下さったすべての皆様のご理解とご支援に、心より感謝申し上げます。 国際協力募金担当 藤原依音

体育教室春休みの取り組み



コロナウイルス感染拡大のため、1月～3月の約3か月、体育教室を行うことが出来ませんでした。体育教室がない!運動ができない!そこで、「岩手県希望協いって 元気・体力60(ロクマル)運動」を基に、家でも体育教室が出来るようにとチャレンジカードを作成しました。

チャレンジカードとは、ボランティアリーダーが、それぞれお家で出来るエクササイズを動画に収め、それを1枚のカードにしたものです。中には、筋肉エクササイズなど楽しいエクササイズがたくさんあります。体育教室がない期間でも、画面越しで久しぶりのリーダーを見ながら体を動かせる機会になればと思います。4月からは、直接みんなと会い、一緒に楽しく体育教室を行っていただけることを楽しみにしています。



3月20日(日)にオンラインを主体として、第2回盛岡YMCA大会を行いました。第Ⅰ部の礼拝では、奨励を魚住英昭理事長よりいただき、厳しい情報統制の中にあつた戦時中の日本にあつて、自立した個人として、毅然として権力に立ち向かつた矢内原忠雄の足跡から、ここ数年、SDGsに見られる地球環境や人権擁護など、世界が歴史を通じ積み重ねてきた普遍的な価値に賛同し、世界中の人々に連帯の意志を示してきた、YMCAの理念を貫き通していくために必要なこととして、1.絶えず、揺らぎのない心理にアクセスするよう努めること。2.鋭い人権感覚をもって地域に生きる様々な人々の友であり続けること。が示されました。

第Ⅱ部では、「ポジティブウェルビーイング」について考えると題して、日本YMCA同盟田口努総主事より、基調講演をいただきました。「よりよく生きる」ためには、自分(個)の幸せだけではなく、自分を取り巻く環境が幸せになることが、自分の幸せにつながっていく。

そういった観点から考えると、YMCAの行うプログラムは、参加者(個)に対して場を提供するだけでなく、その参加者を取り巻く人的環境や社会的環境を支えることにつながっている。それだけではなく、YMCAという場は集う一人ひとりに対して、受動的ではなく、能動的に賜物を共に見つけていく、そして、賜物は他者や仲間がいて初めて生きる、つまり他者が良くなることで自分が良くなることにつながり、他者の喜びが自分の喜びにつながっていく。今後も盛岡YMCAとして、集う一人一人にとって緩やかな繋がり(居場所)をこれからも作っていくために、何が出来るかを見つけようとする事が大切であるということが示されました。

その後12のグループに分かれ、「盛岡YMCAでこんなこといいな!できたらいいな!」をテーマに分団協議を行いました。

本部事務局 浅沼慧



この春、一年生になるお子さん、進級されるお兄さん、お姉さん、おめでとうございます。今年一年間、「食育」のお話をさせて頂く藤原です。

そもそも、「食育」って何のためにするの?どんな事をしたら良いの?と思っている方もいると思います。今回は「食育」とは何なのかを説明させていただきます。

食育とは「食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」ことです。

現在日本では、子どもの朝食の欠食、栄養の偏り、孤食による家族との会話の欠乏が問題視されています。

そこで、「食育」の知識と実践が求められるようになりました。

「食育」では食材の生産過程や調理法を知ることで「食べ物を大切に作る心」と「感謝の心」を育むことができます。成長期において適切な食事を摂取することは、大人になってからの健康の維持にもつながります。

また、家族で食事を囲んでの会話は、お子さんの悩みやストレスの解消や、コミュニケーション能力の育成にも役立ちます。

家庭でも簡単な「食育」を取り入れてみましょう!まずは食事を楽しく食べる事が大切ですので、時間のあるときに行うのがベストです。

○食材に興味を持ってもらう

○作り方を見せる

○食材がどうやって育つか伝える

○「作ってくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝える

この料理にはどんな野菜が入っているのか当ててみて!焼き魚ばかりだったけど、今日は煮てみたよ!この野菜の花はどんな色かな?など、クイズのように聞いてみるのも楽しいですよ。分かりづらい時は一緒に作ってみる、調べてみるのも「食育」に繋がります。

是非ご家庭でもお話をしてみてください!

保育所調理師 藤原留美

表紙の写真から



ぶらいむ・たいむ盛岡中央校で行われた、卒業を祝う会。卒業生は1人ですが、グループ毎に自分たちの言葉で考えた在校生からのメッセージと卒業生が自発的に作成した在校生へ向けたメッセージが届けられました。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram

(2022年3月25日現在)敬称略

●維持会員

山本常雄、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見晃弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤真一郎、伊藤みどり、及川茂夫、acommon、森山日菜乃、森山幹大、伊藤真太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、浅沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理恵子、川坂保宏、魚住恵、魚住英昭、高橋友恵、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、濱塚有史、水野暢夫、角谷晋次、尾形裕一郎、菅原菜理奈、小川嘉文、小川明佑、東森聡、茶畑大地、浅沼慧、浅沼美希、武田悠、中村渉、濱塚直樹、濱塚牧人、清水弘一、及川忠人、宮澤秋彦、中村亮介、水田賢次、松尾聡子、田村治之、名古屋恒彦、名古屋理恵、山田拓路、西野和真、花田瞳、小林明彦、菊地弘生、山口貴伸、深澤秀男、深澤多紀子、工藤シンティア、神田橋慧一、大塚英彦、神谷一夫、南原良哉